



佛外

百化

石鯨

素丸

崑山

子雁鳥

陸馬

七冊之內
四

5
1928
12



5
1928
12

詩
集

乃りけふの夏乃り
秋の夕糸乃り春と
早り遠りと判ちむ
人しの心くまに
かゝる毒しのも
ひ

文化の己の頃

孫 門

まふさ

南山本



合観堂



五のいこい
三のりり
ちのりり
あ

深悟

古のいこい
まのりり
あ

泊徳坐 内田 泊山

飯持と又さくやり
あけいよか大寺
登山の児れ目さ
振袖もよりの世に
始よりのぬり物の針
それ百足鉄火箸もは
おまき一貫も此以
いごういこく物も
皮志ひら白本の名
下いこいあてか
自在にて電も入
始よこそは盗人も
人向い文化すこ
古狸
一途



不老菴

神祇 教教
亥月 素衣
世活
高愛神
四季色々
本州の香き長
浦原 仁川
修治 依流
具舟も思はし
船のうらまを
京迄 不名せし
書祈 念託
町 田 友

省 崑 山

手れい 袋もく 内 の 星 不
一 身 ^多 衣 ^衣 多 ^衣 衣 ^衣 多 ^衣 衣
後 波 小 た こ の 浦 衣 志 志 志 志
中 て 丈 丈 丈 丈 丈 丈 丈 丈
い ち の か こ ち の ち の ち の ち の
居 り た こ ろ ち の ち の ち の ち の
や い と ち の ち の ち の ち の ち の
下 女 の 視 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
免 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
獲 獲 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
五 月 下 下 下 下 下 下 下 下
齒 亦 て 喰 上 飯 七 昔 昔 昔 昔

雲滅て又色を出 月
麻上似、結るひさ外妹はれ
後妻あれは香よおつひ着き
女もくよりし 水よ 一 一 一 一
身 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
寸 乃 服 衣 尺 乃 乃 乃 乃 乃
争ひの底よぬふきいふと莫
誓古くくくくくくくくくく
た 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
忌日の墓 一 一 一 一 一 一
衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣
我 一 一 一 一 一 一 一 一
坐 禪 の 床 上 世 の 塵 衣 衣
衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣

山家集 卷之七
三夕のぼる一
かきくろくを
方一

山家集 卷之七
三夕のぼる一
かきくろくを
方一
不次香

團雪坊

法和交る一
三夕のぼる一
かきくろくを
方一

船のくるる玉江の草の香
候はく白紙拾て志ふる
物置に傳てかきけと石一
車とつてぬ汁一えんせ馬
花もも葉吟州ハ吹折以
福汁の茶碗一
時分を茶碗にえんせ七
折乃花ももる如舞比陣風
大古の中間歌屋の
又誰も茶碗の茶とをかきおて
何の日ハ枕よ社坊の商人
風ももく草の香の香
澄はく男前茶子
船小舟木々登良比中
茶楊籠小大風中乃系
釣竿とはく樹虫乃粘る

村松子鷹

二人来りて医者とてさぬ歌魂病
出雲の湯伏金りくの外
出雲も千歳と沈人と松乃下
七尺去く本也りの方子
借る茶碗に留りたる茶の香
茶碗と持りて摸乃嚙合
袋入娘と持りてんべいや
下下節ある拂りたる
居間居て叩けてくれと座の
系一系に年明比
十一黒日文名日比沙伏陰
蜃気の芳化中二階吹
石曰虎七んはてふ玉比怪我
と云佛海気死ぬかり

淡江流... 舟... 月... 蛇... 羊... 菜... 水... 男... 檀... 牡丹...

子天物のつままり其の祝比鼻
轉改痛胆と尻尾いとい葉
土船のうら云あく位後取程
桶伏とら由來て下に傳ふ心
安ね多目一松よ十三人
矣そふ乃麻云却進快と護
海月むぎん波乃白鬘、川ぶさ
兩者を子間乃令ハ川ヶとを
九千をふか志や會うこのかま
目のよりい蛇考のなるハッ目
を羊流と用取菜 蛇 浅
菜師の滝流為す為と習く
水見巴田と云めらりの浅今
と男荒大の流とかひるを
檀林と蛇流まれば沙喜花不
牡丹候ハ黄ナ終の芳の世

若水菴

玄源の式目
我ら此まうい
都て文堂よ
載かきまうハ
得ら全一能諧の
凡後いささ心
右法とらうハキ
かりと舟十八篇
取すあし遠い
以道具とら
言点二夕花
取すあしえ合
と下一法獨本
つり今うめかき
うハキり
すまうい

岡村陸馬

枕一ツり蔵と方り 岡
赤上管に成てハ居れと人心
怪りてらんれを陽をた異を
今所歌と運一ハ
月の以いささハ大入の天ヶ格ハ
夫婦 歌一して度受た不印ハ
うらまゐる 彼とつ淡溪ハ水
塩實 移す一ま い 所 越 白
凡凡て魚 蒸 籠の夕煙
物れ小なりいと嫌ふ病人
印可傳授す才子に霞明
と雲のほのくさの土くさ
月もえ流ももる因縁え
夫婦 候 橋 ぐ 夕 々 乃 名

九狐齋

ま本茶

九狐齋

一、
才一、
下、
考、
氏道、
病新、
馬、
身、

狐、
堂、
神、
屋、
男、
女、
香、
指、
漢、
一、
山、
若、
生、

省佛外

考、
瓶、
刀、
細、
途、
湯、
松、
岡、
松、
空、

出がけし嘆うるわれいあやまふ
 国乃こゝろと通るぬきま
 こゝろぬ我子の蝶やまゐい
 つゝ留る地系乃の膝上まのま
 科也ヤ行山細ハ妻もほし
 残人外なる曙乃
 可也くうるそまもてあは
 猿人笑ひおふ ね系
 子仇二人と家乃蝶も
 船後の暖乃向ふより梅も
 風波の残も仏法乃法
 うれせす水々一滴珠の中
 突上る書乃舞竹す系
 況湘日夜戸穂し山水
 人並に伝はしるる岸底
 年更らまはしの妻の 況

杉原百化

精齋

付三句のころり
 才一
 采情念に
 祿
 世活るう
 かつきい
 句能すく
 とど

花の都乃 船日一面
 風凰小来てそいとも男し附
 才くうらつうの傍をけけ
 阿鼻地獄に蓮地獄の夏さゆ
 眉も動て教のつる 癖
 理屈し先ととてして政う出
 廉忽れ下部をくうらうる
 志た政志りし舟の中れて居
 志とおるももふるし 我ま
 とる死ぬ身いきさうき
 残らぬ才くうらうる
 髪をの末まうれとかけえ
 大柄よかさけ子のうら
 冬條りほし桂のひくく

女おの外ハなもふま、毫
 け能とよもれハ新く因 西
 一里くとい日一 葉乃花
 次ノ乃る小証はくけら火とけき
 又らねて居るを志くぬ 横秋
 馬不と子首一何れハ 大 龜
 釣石と鬪了遊して秋の凡
 そろく倒の煙屈出て来る
 小庄去も京のやふる志の署
 二人とあつて踏くる 秋 忌
 鬼條る女を連る京の仕家部を
 小町もせくつさめの
 女と能てありしるあ
 秋大室より二十尋乃

加子坊

才一急の分賣を
 一 順きの出
 ちやふとを
 法ふ一
 法ふの志を以て
 地名
 未の松山 彼紙坂
 信紙坂
 壬生ねえハ
 法弱法
 清く心ろき白
 津波 軍作
 女人名
 五

岡村石鯨

子細く由良千新比メウすそ
 好ニを携乃 医者者と 侍
 新造の声 大道へ突ぬけて
 峯危る重くく 松乃風
 大赦乃 舟波 娘ヤうに 僧
 何らめし 可し 日
 独ふむまのて産而の
 風清く月五中 院光り
 彼紙坂より 対陣
 誰か 名を 百葉に
 鶯啼 昔書 櫛ま 廊の
 四十 伯母子 出
 産れ 僅いと 一間 掃

皆傳や春りて雨夜の小路にて
をまよとたたりし一舟かきく、
浪吹く心なきも、地の奥
采女乃まの原き、船高
送さね乃らるる言は、夜
おぼしむる乃二枚折
清砂るおも荒る、本居川
ををるる皆あらしと若し
團いひし、く末乃松山
友祝をと胸し、よとを
とく系や石乃花もをり、
猿傍のいさか、よとをいひ、
か乃雨もむらく、天
いれつとく、い雨を、
えふぞり、わく、斑猫の毒

累日庵

三句のほり、
白梅のまよ、
高白のる、
名情を、
附く、
張向ふま、
えり、
る長り

贈答

素丸

ふふ 不思義を、
高きは、
よま、
山移不自利、
一休孫、
目の、
人の、
双六の筒、
田植は、
月代と、
徳周の、
こよ、
今度の、
西かく、

感後てよむ道松の他
 元初中母と云ふより居坐りて
 土佐の名も渾一の小浜上り町
 乙れも女てニツ子英
 息杖うけし駕籠のいかり
 齒よえさむいふ代寄のこれ兼て
 月老小はけても人の只を病
 え日登新れこころ百姓
 糸やきりれを人終極のいかり
 揚屋の雨乃牡丹とあつてはて
 吹してふれいままささい中
 味嚼けてあつと山して死ふかり
 きのふより由衣よめまこと血色
 糸線の効りし伝る
 日えは雪解の山棲鳩の山
 奴のをて馬は口これ藤

星運堂訓書目

東風山と谷川 花屋久太郎

訓語

京都山崎の御書 笑言散人書成

四季發句帳

京都總宗也發句 追記諸君御句

全後編

家雅見種

山崎 京都總宗也所用 并別号月

枝笈

反政齋果然者 高直一坐一卷宛

靈阿加梨

書十庵 浪宗也 諸并句ノ附合書

全後編

北溟香川

諸君ノ書 并句ノ書 櫻ハ今ニモ門ニ相成 後カワリノ候ハ出板

全後編

多々津句

存義則高直前 句

遠筑波

存義 句

古来庵句集 句集

初稿 在教訓高直頭書州 句集

ぬきり 句集

日さか 句集

ふきり 句集

長き 句集

ふきり 句集

野地 句集

櫻台千歌仙 句集

飾墨 句集

かき野 句集

古来庵句集 句集

江原見 句集

春草集 句集

俳諧三代集 句集

吾妻 句集

雙喜會送 句集

材晋問答 句集

俳諧正産薦 句集

樓口句集 句集

買明句集 句集

雙後路談 句集

野の部 句集

志のり 句集

いせり 句集

附合高直部類 句集

田女句集 句集

俳諧平河 句集

正四 俳諧得道解 寛政 俳諧百集 徳山

鶏口發句集 同列 句帳 弘化

きりふし 鶏口先生 五十年自述 西判月並句集

化鳥合 空馬撰 十二歌仙 才實發句集 空馬撰

空馬撰 空馬撰 空馬撰 空馬撰

不毛 空馬撰 花實集 秋色庵野

不毛 空馬撰 石井 空馬撰

綾錦集 全後編 近刻

誹風柳橋 川柳乃句合鳥 毎行一卷宛出版

柳橋拾遺 川柳乃句合鳥

全未摘花 全人力句合未刊 初篇より三篇出来

万句抄 平抄宗匠 俳諧百人句 陸馬撰

江戸四天王 初篇より 燕志月並發句集

若眼鏡 露一撰 蕉翁渡唐之像 石

俳諧百十草

文未竟
高判

同折花集

高判

同如是俳

在雜宗色句
蕉翁百題追憶

同千々佳句

高判

遊覽志

蘇島百首俳著
山城近江地名最著
古人發句

山遊以人

後集

山東遊覽志

葛原著
錄金沢江島三浦篇很温象九
寄古歌并古人ノ發句ヲ記

近在所各集

武江近在二層ノ東海濱
鎌倉京近在流行ノ所

全後集

礎

漁著
當時流行ノ歌ノ類
和之者ノ文字ノ類

增補俳諧礎

高判

百十花

高判

俳諧百十草

高判

俳諧二冊子

石山著
石橋堂歌仙集
發句

百十鳥

園女發句
高判

同十里獨歩

素綾著
俳意多
自然自得ノ詩也

同年代記

素綾著
素細記

同器新集

得器百首
高判

同後編

全上 出來
三篇編出

及桑林

岩松著
歌仙發句

俳諧管芽野

平砂著
聖廟御年甲集

俳諧五萬戈

得器著
五萬刃高判

二見浮文臺記

南山著
南山著
二見浮文臺記
と石壇ノ發句

かひ橋松の橋

南山著
南山著
かひ橋松の橋
一橋松ノ別者天竺人ノ詩下條ナシト云ハレ
一橋松ノ別者天竺人ノ詩下條ナシト云ハレ
一橋松ノ別者天竺人ノ詩下條ナシト云ハレ
一橋松ノ別者天竺人ノ詩下條ナシト云ハレ

○靈門俳書類目錄

俳諧句抄紙 牛心著
画入發句
歌仙

同拔萃 龜戸天満宮奉納
類面之發句

靈門發句帳 川
一列之著
靈のり三編
近刻

一陽井素外先生著

鷄談意藏

梅翁發句集

類句辨

右くり類句ヲ並テ
見交キヨウニセシセ
ル也

江戸川

是日善孤(夏取ノ句)
前句トシテ自徳淀川
做ト素外社中數ノ附句也

五色梅

素外連中梅題發句

右蒼風
素外拍掌十句

蒼風傳々夏取ノ附句ヲヒロヒ
素外ノ句ニテ續リテ十句トナル也

一物連歌

室子十人ノ詠ヲ九人
得志同季月地トシテ
各擲句也

古今七夕發句集

七ツノ色紙
大ノ書マシキ
人ノアツム人

紀行春篋

素外京師道
往來ノ事也

天狗

梅田屋
詠

手毎花

一陽井評物
高英

百貫樋

素外
詠
高英

猿筑波集

川合夏白前句集
部分著

俳諧十款儂

五七五七七
目菴著

同神田集

杉山左今夏白
神田菴著

俳諧社結核

平例附台
島田下流著

同沖の梅

同上
同集

玉花勝覽

七言七下集并
梅道山右作

東武多少庵俳書月

東武山下川
星蓮堂 花屋久次郎

鹿島紀行

芭蕉翁真變
鹿島門發句著

其葉裏

松嶺庵終焉記
百首句仙筆發句
多少庵秋山撰

心志

風前房古抄四季百句并
附台發句

夷川道途

同門四季發句
并月庵遊之撰

續百時鳥

同門郭公句并百首
多少庵撰

兒午柏

交林 奔因 梅路庵父 吟發
其外兩吟句仙著

句讀秀撰

白蓮堂夏風
多少庵秋山兩書

柳居發句集

地志寺門發句
松嶺庵

甲子吟行

芭蕉翁真筆
波靜撰

大無發句集

松嶺庵撰

ぬく木く春

柯尼傳承并の具

秋瓜撰

寛政百頁多し意句集

同句集後編

東片ま山崎洲舟日

主野中 吉屋入文補

[Faded vertical text columns, likely bleed-through or ghosting from the reverse side of the page]

